

DB Monitor for PostgreSQL

WebSAM 監視設定手順

V1.1

第一版
2022 年 4 月

日本電気株式会社
OSSDBMON02-01

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他、このガイド内に記載されている Microsoft 製品は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- PostgreSQL は PostgreSQL の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。なお、® マーク、TM マークは本書に明記しておりません。

はじめに

対象読者と目的

本書は、PostgreSQL データベースの監視を行う製品「DB Monitor for PostgreSQL」の使用者を対象読者とし、その方法について説明します。

なお、対象は DB Monitor for PostgreSQL 1.1 以降となります。

本書の読み方

本書では、DB Monitor for PostgreSQL の利用方法を説明します。

本書の表記規則

本書では以下の表記方法を使用します。

表記	意味
コマンドライン中の[]角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能であることを示します。 例：pg_monitor [オプション]
コマンドライン中の パイプ	パイプで区切られた各要素のいずれか 1 個を選択することを示します。 角カッコの中で利用されている場合は省略可能です。中カッコの中で利用されている場合は選択必須です。 例：pg_monitor [オプション オプション]
コマンドライン中の{}中カッコ	パイプと併用され、パイプで区切られた要素のいずれか 1 個を選択することが必須であることを示します。 例：pg_monitor {オプション オプション}
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目です。 値の中にスペースが含まれる場合は "" (二重引用符) で値を囲ってください。 例：pg_monitor -d “監視対象 DB 名”

定義名一覧

定義名	説明
<install-path>	本製品のインストールパスです。
<db-instancel-path>	DB インスタンスの格納先パスです。
<websam-agt-install-path>	WebSAM SystemManager G Agent のインストールパス デフォルトでは下記ディレクトリ /opt/nec/pf/opm/agent/

内容

免責事項	2
商標	2
はじめに	3
対象読者と目的	3
本書の読み方	3
本書の表記規則	3
定義名一覧	3
プロダクト型番一覧	5
1. WebSAM SystemManager G を利用した監視	6
1.1. 監視機能の構成	6
1.2. 監視設定用のツール	6
2. 監視設定手順	7
2.1. カスタム性能監視用プロパティファイルの作成	8
2.1.1. 監視対象 DB のオブジェクト一覧取得	8
2.1.2. プロパティファイル生成	9
2.2. WebSAM SystemManager G のカスタム性能監視設定	11
2.2.1. プロパティファイル配置	11
2.2.2. サービスの再起動	11
2.2.3. WebSAM SystemManager G の設定	12

プロダクト型番一覧

型番	製品名
UL4394-008-I	DB Monitor for PostgreSQL V1.1 for Linux (保守アンバンドル)
UL4394-H008-I	DB Monitor for PostgreSQL V1.1 for Linux (1 年間保守つき)
UL4394-J008-I	DB Monitor for PostgreSQL V1.1 for Linux (1 年間時間延長保守つき)

1. WebSAM SystemManager G を利用した監視

1.1. 監視機能の構成

DB Monitor for PostgreSQL および統合監視システム WebSAM SystemManager G を利用した PostgreSQL の監視システム構成は以下の通りです。

種別	役割・導入コンポーネント
監視クライアント	WebSAM SystemManager G クライアント(ブラウザ)
マネージャサーバ	WebSAM SystemManager G マネージャ
監視サーバ	PostgreSQL(監視対象) WebSAM SystemManager G エージェント DB Monitor for PostgreSQL
プロパティファイル作成環境	Windows PC(Microsoft Office)

1.2. 監視設定用のツール

WebSAM 環境での監視設定を行うため、以下のツールを用意しています。インストール媒体の websam フォルダから取得可能です。

ツール	概要
get_object_list.sh	監視対象の DB から情報を収集するスクリプト
PostgreSQL 監視項目.xlsx	WebSAM 製品に入力するプロパティファイル生成用の EXCEL シート

2. 監視設定手順

DB Monitor for PostgreSQL により収集した情報を WebSAM SystemManager G で監視する手順を紹介します。

以下の手順は、WebSAM SystemManager G および DB Monitor for PostgreSQL の導入は完了していることを前提としています。WebSAM 製品、DB Monitor for PostgreSQL の導入手順は各製品の説明書をご覧ください。

- ① カスタム性能監視用プロパティファイルの作成
- ② WebSAM SystemManager G のカスタム性能監視設定

手順の中で行う作業について、以降に説明します。

2.1. カスタム性能監視用プロパティファイルの作成

監視対象の DB から定義情報を取得し、WebSAM SystemManager G に入力するためのプロパティファイルを作成します。プロパティファイルの作成手順は以下の通りです。

- ① 監視対象 DB のオブジェクト一覧取得
- ② プロパティファイル生成

2.1.1. 監視対象 DB のオブジェクト一覧取得

ftp、scp 等を利用して監視対象 DB サーバ上にスクリプト「get_object_list.sh」をアップロードし、スクリプトの実行とファイル出力が可能なディレクトリに配置してください。

スクリプトに DB の接続情報を指定し実行すると、スクリプトを実行したカレントディレクトリにオブジェクト一覧を出力したファイル「object_result.txt」が出力されます。

object_result.txt はプロパティファイルを生成するための Windows クライアントにダウンロードしてください。

スクリプトの記述形式

get_object_list.sh

-u[DB ユーザ名]

-w[DB 接続用のパスワード]

-h[DB 接続用の IP アドレス]

-p[DB 接続用のポート番号]

記述例

```
$ which psql1
/usr/bin/psql
$ ./get_object_list.sh -upostgres -wpostgres -h127.0.0.1 -p5432
```

¹ get_object_list.sh スクリプトを実行するユーザは、PostgreSQL の psql コマンドが実行可能なパスを設定されている必要があります。

2.1.2. プロパティファイル生成

プロパティファイルの生成用ツール「PostgreSQL 監視項目.xlsm」に DB 接続情報(ポート番号)とダウンロードしたオブジェクト一覧「object_result.txt」を指定し、プロパティファイルを生成します。プロパティファイル「getcustomperflist.properties」は「PostgreSQL 監視項目.xlsm」と同じフォルダに生成されます。

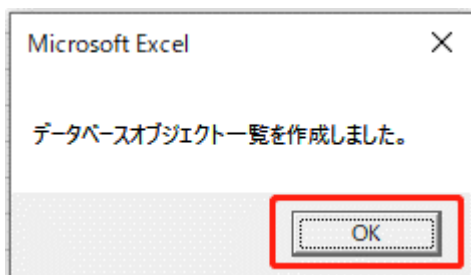
- ① EXCEL で「PostgreSQL 監視項目.xlsm」 ファイルをオープン
- ② 「オブジェクト一覧」シートを選択
- ③ ポート番号欄に監視対象の DB の接続先ポート番号を、ファイルパスにオブジェクト一覧ファイル「object_result.txt」の配置場所を指定

データベースオブジェクト一覧		カスタム性能監視項目一覧を作成	データベースオブジェクト一覧をロード
ポート番号:	5432	ファイルパス:	C:\Users\21714901\Desktop\object_result.txt

- ④ 「データベースオブジェクト一覧をロード」 ボタンでオブジェクト一覧を作成

データベースオブジェクト一覧		カスタム性能監視項目一覧を作成	データベースオブジェクト一覧をロード
ポート番号:	5432	ファイルパス:	C:\Users\21714901\Desktop\object_result.txt

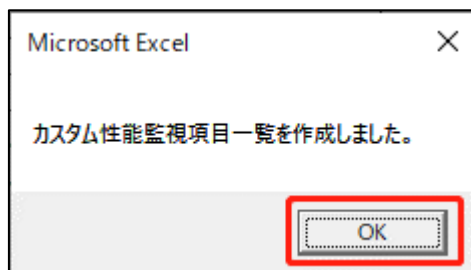
- ⑤ メッセージボックスが表示されたら「OK」をクリック



- ⑥ 「カスタム性能監視項目一覧を作成」 ボタンで「カスタム性能監視項目一覧」シートに監視項目の一覧を作成

データベースオブジェクト一覧		カスタム性能監視項目一覧を作成	データベースオブジェクト一覧をロード
ポート番号:	5432	ファイルパス:	C:\Users\21714901\Desktop\object_result.txt

- ⑦ メッセージボックスが表示されたら「OK」をクリック

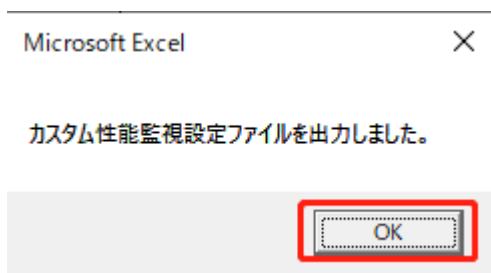


- ⑧ 「カスタム性能監視項目一覧」シートから監視対象を選択(セルの色が変わります)

- ⑨ カスタム性能監視設定ファイルを作成

カスタム性能監視項目一覧	カスタム性能監視設定ファイルを作成	一覧をクリア
--------------	-------------------	--------

- ⑩ メッセージボックスが表示されたら「OK」をクリック



- ⑪ 出力された getcustomperflist.properties ファイルの内容を確認

名前	更新日時	種類	サイズ
getcustomperflist.properties	2022/04/27 6:54	Properties ソースフ...	3 KB
PostgreSQL監視項目.xlsm	2022/03/22 12:02	Microsoft Excel マ...	115 KB

2.2. WebSAM SystemManager G のカスタム性能監視設定

カスタム性能監視機能で PostgreSQL を監視するため、プロパティファイルを配置して WebSAM SystemManager G エージェントの再起動を行います。

2.2.1. プロパティファイル配置

- ① WebSAM SystemManager G エージェントインストール先パス配下の conf ディレクトリへ移動

```
# cd <websam-agt-install-path>/conf
# ls
msc_opm.properties  prestartup.properties  sample
# mkdir -p performancemonitor/custom/2
# cd performancemonitor/custom
# ls
```

- ② 同フォルダに生成したプロパティファイル「getcustomperflist.properties」を配置
注意：ファイルの文字コードが UTF-8、BOM 無しであることを確認してください

```
# ls
getcustomperflist.properties
# file getcustomperflist.properties
getcustomperflist.properties: UTF-8 Unicode text
```

2.2.2. サービスの再起動

WebSAM SystemManager G エージェントのサービスを再起動し、プロパティファイル読み込みます。

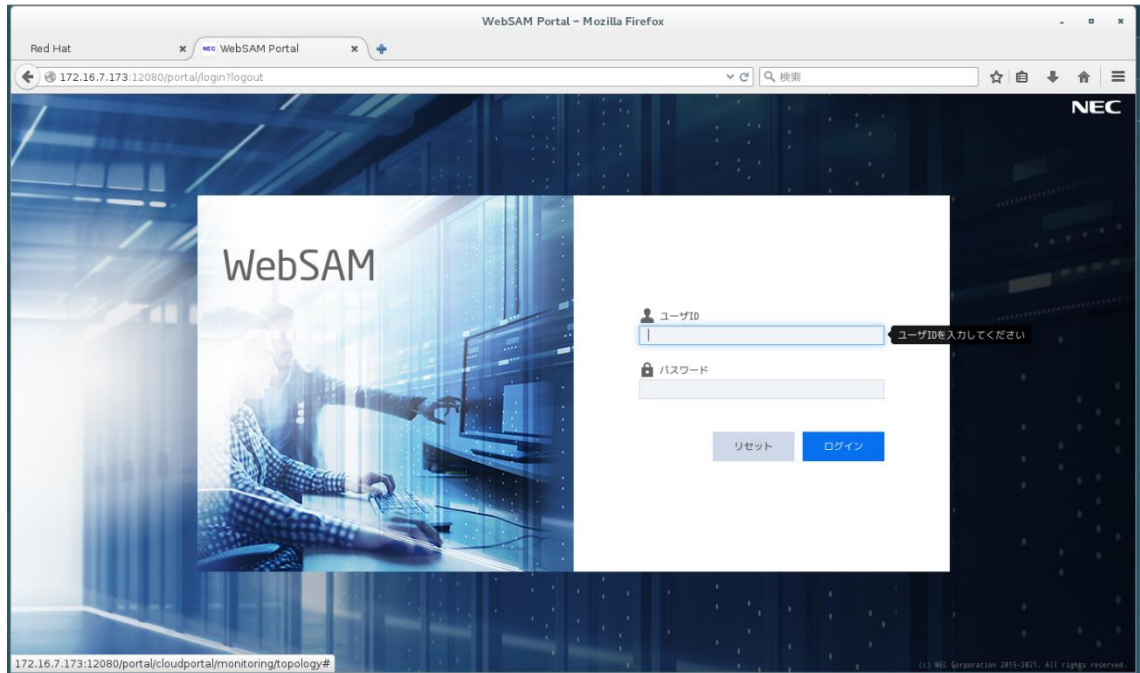
```
# systemctl restart msc_agent.service
msc_agent.service - Startup script for the msc_agent
Loaded: loaded (/etc/systemd/system/msc_agent.service; enabled; vendor preset: disabled)
Active: active (running) since 日 2022-03-20 19:33:45 JST; 2s ago
```

² 既に「performancemonitor/custom/」ディレクトリが存在している場合は、ディレクトリ作成の作業は不要

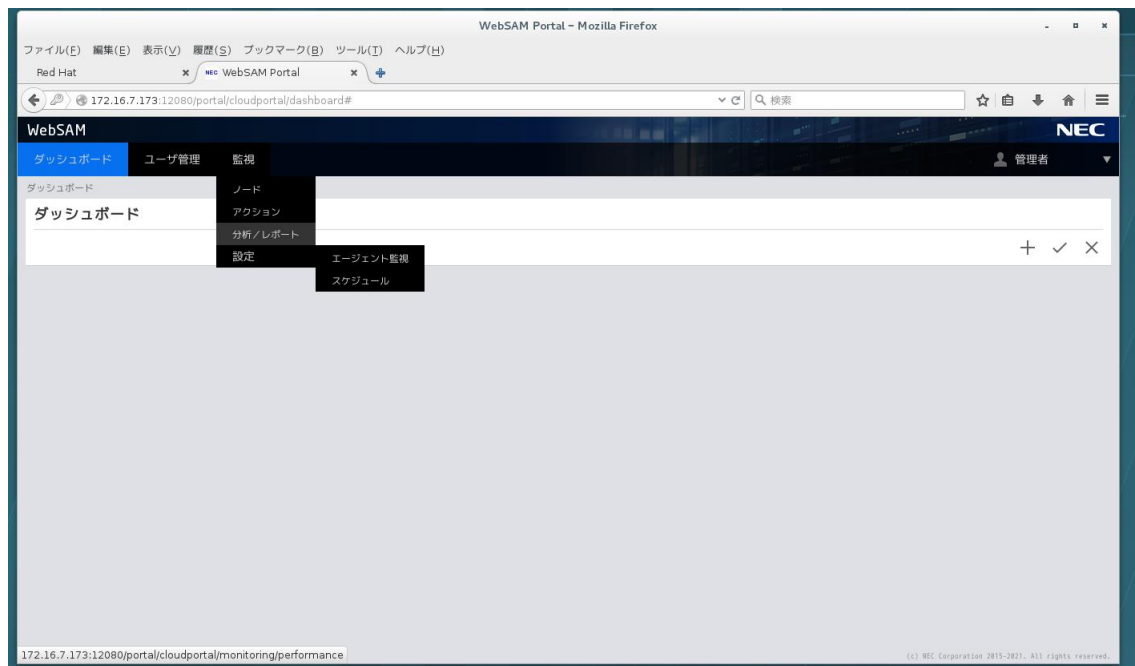
2.2.3. WebSAM SystemManager G の設定

以降はカスタム性能監視機能を WebSAM の設定画面(WebSAM Portal)から設定します。

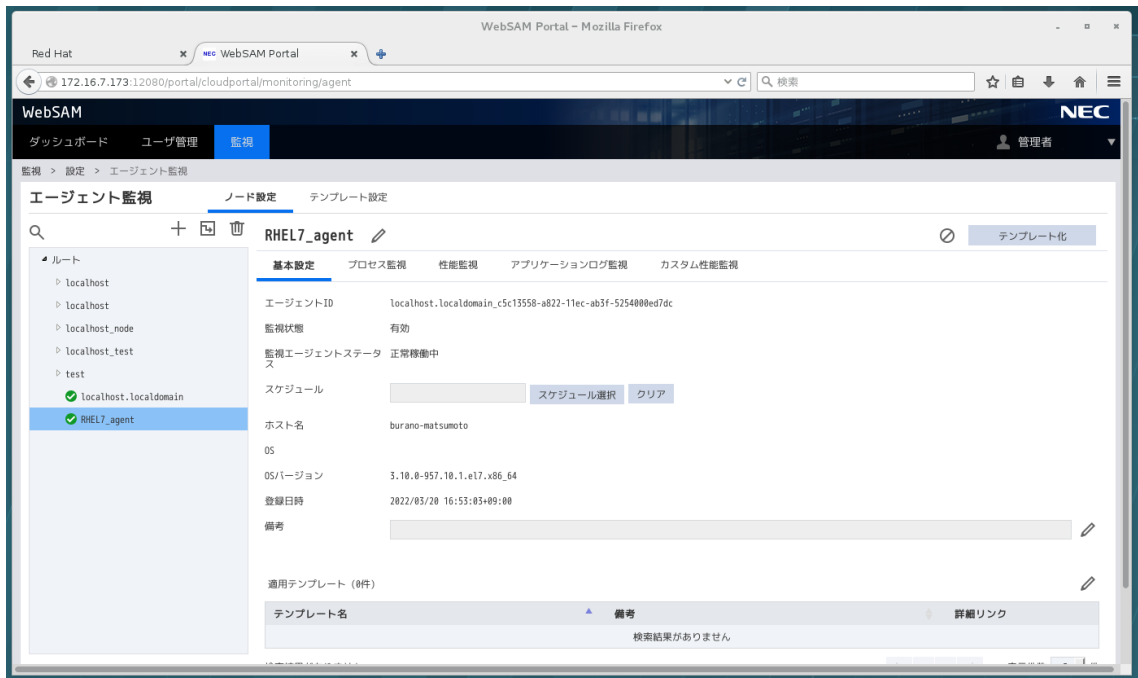
① WebSAM Portal にログイン



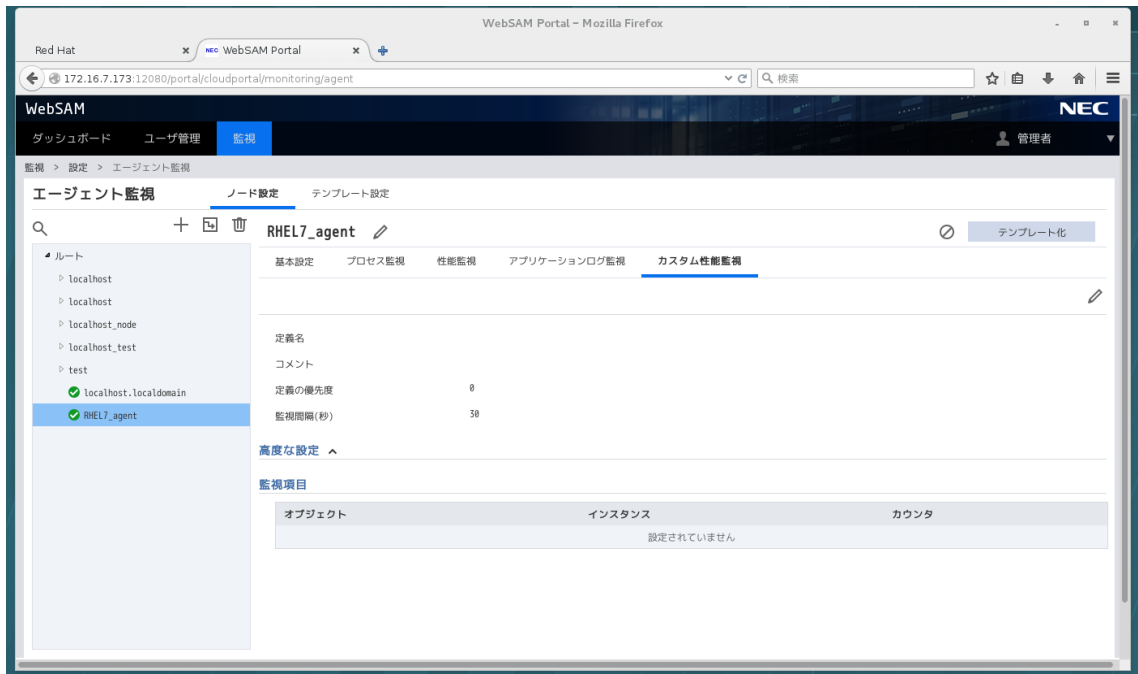
② 監視 > 分析／レポート > エージェント監視を選択



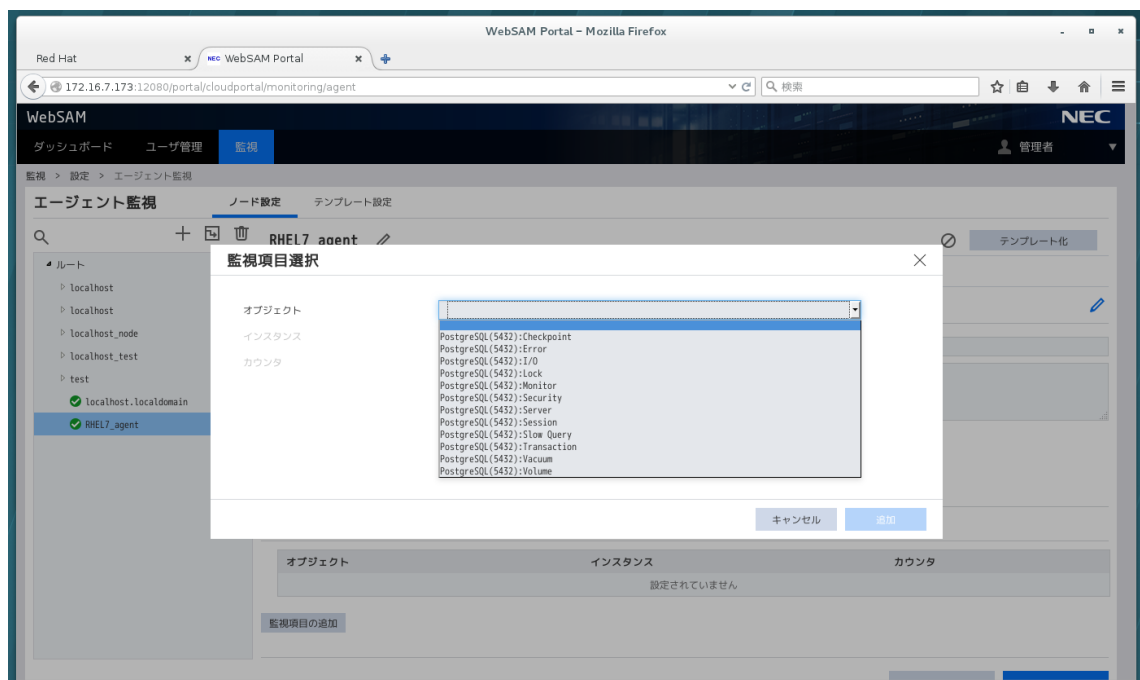
- ③ 監視エージェント設定画面で対象ノードを選択
下記の例では「RHEL7_agent」を選択



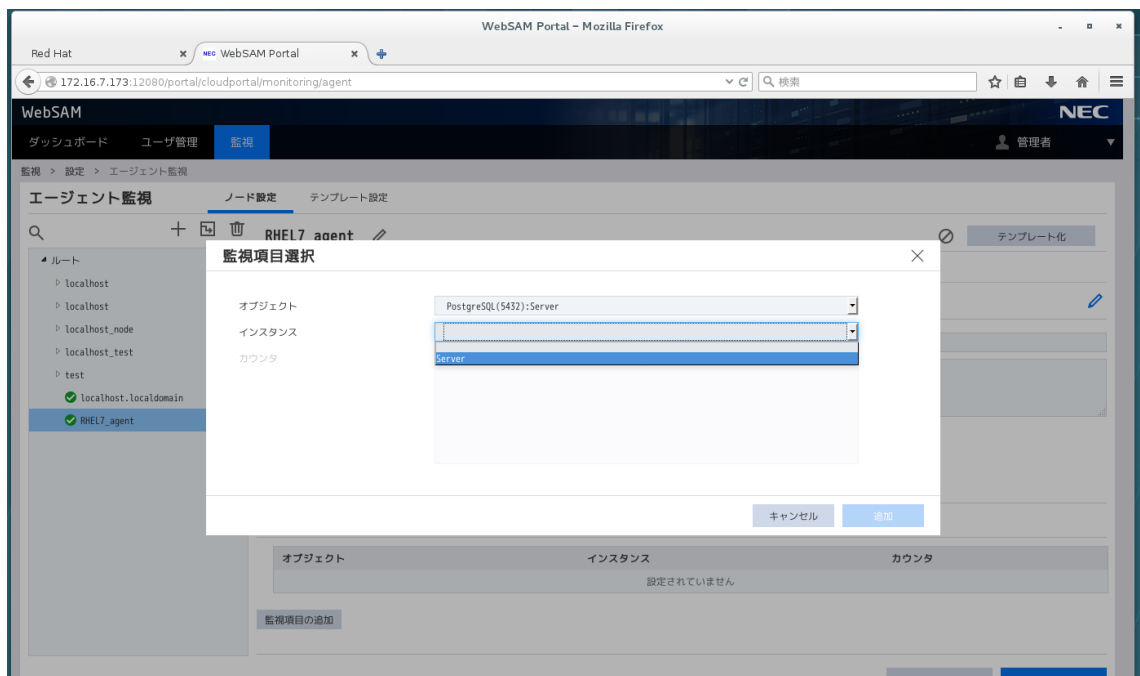
- ④ カスタム性能監視を選択



⑤ 監視対象のオブジェクトを選択

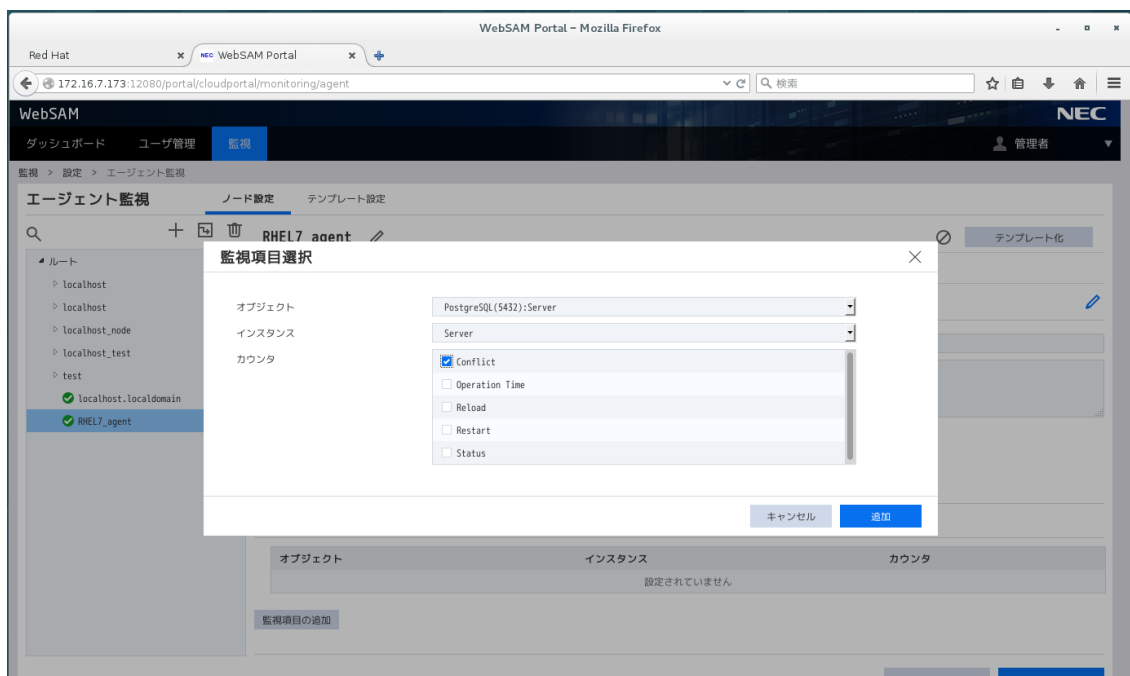


⑥ 監視対象のインスタンスを選択

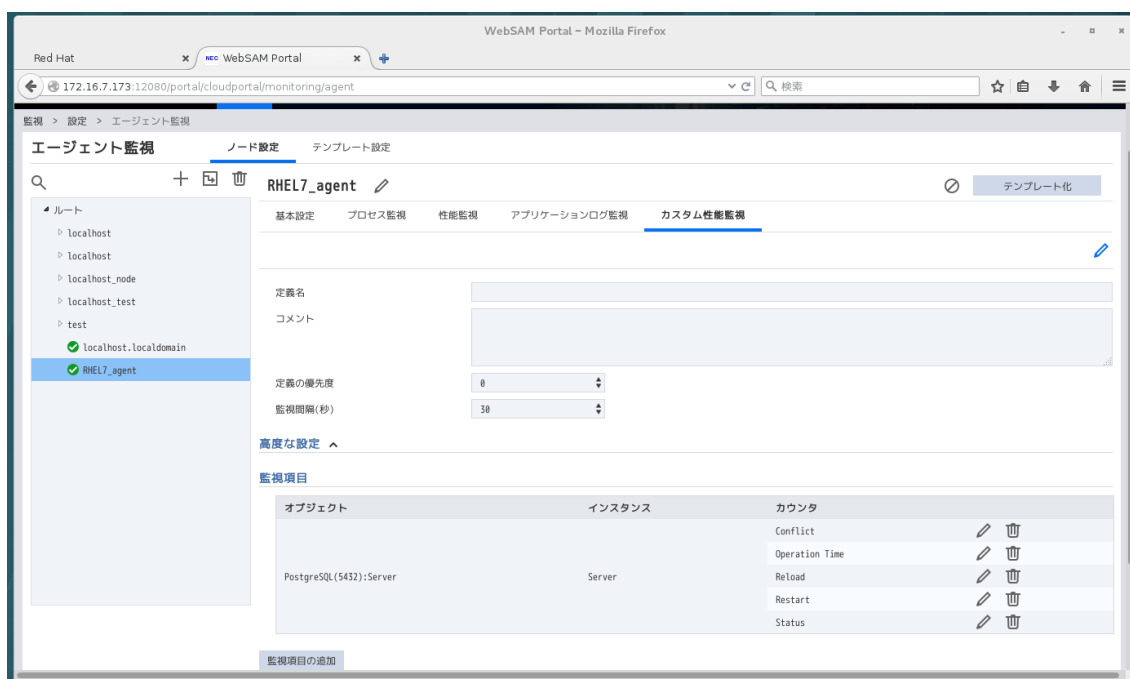


⑦ 監視対象とするカウンタを選択

カウンタの詳細に関しては、DB Monitor for PostgreSQL のマニュアルをご覧ください。



⑧ 閾値等のカウンタの設定を実施



DB Monitor for PostgreSQL WebSAM 監視設定手順

O S S D B M O N 0 2 - 0 1

2022 年 04 月 初版 発行

日本電気株式会社

©NEC Corporation 2022